学校だより

# くろだ

令和５年４月１２日　第１号
富士宮市立黒田小学校
富士宮市星山 1030-2
電話 0544-26-2670

**学校教育目標　　自分事として学び、共に活動する子**

今年度から、学校教育目標を「自分事として学び、共に活動する子」としました。他人事ではなく、常に主体的に学び、友達と対話をしたり活動したりして、学びの質を深めてほしいという願いを込めて、この目標を設定しました。この目標に迫ることができるよう、子供の思いに寄り添い、保護者及び地域の皆様と協力していきたいと思います。一年間よろしくお願い致します。

## 子供の都合と大人の都合

校長　　米津　英郎

子供は、様々な活動を通して資質・能力を身に付けていきます。その活動には、本や資料を読んで考える、答えを予測して実験で確かめる、PCを活用して自分の思いを表現する、旋律にからだをゆだねる、外に出て季節を感じる、地域を調査する、外国語を話す、運動をするなどがあります。

どうせ同じ活動をするのなら、**子供がやってみたいと願って楽しく取り組む活動の方がよい**ということに異を唱える人はいないと思います。やりたくもない活動を嫌々やることは、子供の成長に暗い影を落とすことに疑いの余地がありません。せっかくのかけがえのない子供時代を、ため息の中で過ごすなどということは、避けなければなりません。

そもそも、わざわざ学校に来るのだから、来ない時よりも**輝いた時間**になることは当然のこととして求められていいと思います。子供が意味を感じられない活動はできるだけ減らしていかなければなりません。

とは言うものの単純に、子供がやってみたいと願って楽しく取り組む活動を行えばよい、と考えているわけではありません。いくら楽しく活動しても子供に資質・能力が身に付いていなければよい活動とは言えません。つまり、活動の中に教育的価値のある内容が含まれていなければならないのです。

そこで、本校では、目の前の子供の姿から出発して、**子供にとって意味のある活動（子供の都合）と大人にとって価値のある内容（大人の都合）の折り合い**を付けて、**学校教育目標「自分事として学び、共に活動する子」**に迫っていきたいと考えました。

３月の卒業式後に、卒業生（男子）が私のところに来て、次のような言葉を述べました。**「校長先生、黒田小を頼みます。だって俺の学校だし俺の母校だから。楽しい思い出がたくさんあるから。卒業しても（黒田小に）来ます。」**この言葉を聞きながら、この子にとって、意味のある活動が多くあったのだろうな、と思いました。そして、こういう子供を育てたいと強く願うようになりました。

教職員一同、力を合わせて取り組みますので、ご協力とご支援をお願いします。